

写実を追い求めた2人

岸田劉生は、「麗子像」など日本近代洋画史に残る傑作を描いたことで知られています。1915年に、独自の美術団体を結成。草や土までも見落とさずに描くという考えで草土社と名付け、人や自然をありのままに描き出す写実の道を追求しました。

一方、椿貞雄は、18歳の時に画家を志して上京し、岸田の個展を見て感銘を受け入門。草土社の立ち上げにも加わり、岸田が38歳の若さで亡くなるまで身近に居て、岸田の影響を最も強



岸田劉生《椿君に送る自画像》
1914年、東京都現代美術館蔵

交差する情熱

く受けました。2人は師弟であり、写実の美を追求した同志であり、生涯の友でもありました。

岸田の没後、椿は大きな喪失感を抱えますが、ヨーロッパで学んだ後、画家として再出発します。愛する家族や長崎の風景などをテーマに、独自の絵画を探求しました。

九州で初の開催

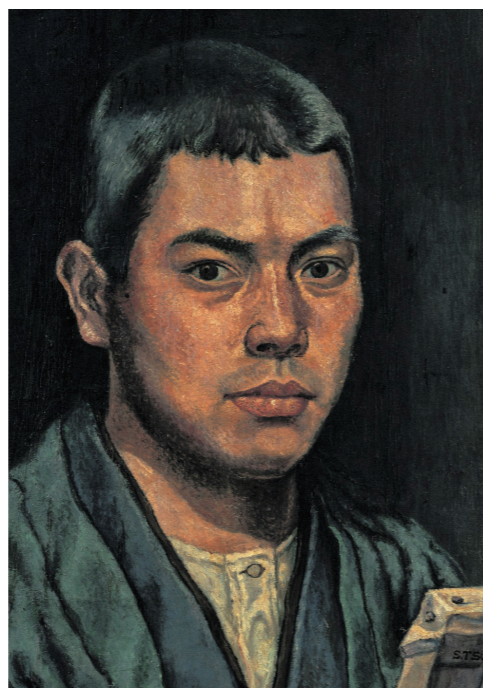
岸田と椿の画業を合わせて紹介する展覧会は、九州では初めての開催です。2人が出会ってからの共に写実を追い求めた時期、東洋の美に関心を広げ日本画

の制作に取り組んだ時期、岸田亡き後の椿の活躍という順に、2人の生涯を紹介します。

代表作を含む油彩画、日本画約160点と手紙などの資料で2人の強い絆とそれぞれの個性に迫ります。

【会期】4月7日(出)から6月17日(日)までの10時～17時。月曜は休館。4月30日(休)は開館

【料金】1000円、65歳以上700円、大学生500円。高校生以下は無料。前売り券は600円でチケットぴあ、ローソンチケットで販売。4月26日(休)と5月5日(休)は無料



椿貞雄《自画像》
1915年、千葉県立美術館蔵

関連イベント

【美術講座】①愛情の画家 椿貞雄・4月14日(出)、②劉生から見た椿貞雄・6月2日(出)。いずれも時間は14時～15時30分、会場は市美術館1階多目的ルーム。定員は各70人・当日先着順。料金は無料

【ギャラリートーク】会期中の土・日曜14時～14時20分。4月14日、6月2日を除く。同展覧会のチケットが必要

久留米市美術館(☎0942・39・1131、FAX 0942・39・3134)



椿貞雄《菊子座像》(部分)
1922年、平塚市美術館蔵

岸田劉生《童女図(麗子立像)》(部分)
1923年、神奈川県立近代美術館蔵

ふたりのまなざし

求道の画家

岸田劉生と椿貞雄
Ryusei Kishida & Sadao Tsubaki

久留米市美術館で、4月7日(出)から、大正期に活躍した美術団体「草土社」で深い交流のあった2人の画家、岸田劉生と椿貞雄の展覧会を開催します。

4月7日(出)から
6月17日(日)まで

年間フリーパスでお得に美術鑑賞

年会費5,000円で、市美術館が主催する展覧会を1年間何度でも鑑賞できて、同伴者1人まで無料になるお得な会員制度があります。

平成30年度の入会を受け付けています。詳しくは問い合わせ先に連絡してください。

石橋文化センター (☎0942・33・2271、FAX 0942・39・7837)

